Racing Topics

★中央競馬ニュース　文・谷川善久★

●菊花賞ではタイトルホルダーがＧⅠ初制覇

10月24日(日)に行われた菊花賞(ＧⅠ)ではタイトルホルダー(牡３歳／美浦・栗田徹厩舎)が優勝、ＧⅠ初制覇を果たしました。２着には美浦・久保田貴士厩舎のオーソクレースが入り、菊花賞における関東馬のワンツーフィニッシュは1985年以来36年ぶりのこと。タイトルホルダーに騎乗した横山武史騎手の父・横山典弘騎手も1998年にセイウンスカイで菊花賞を勝利しており、騎手による菊花賞親子制覇は史上４組目のこととなります。

●武豊騎手がＪＲＡ通算4300勝を達成

10月24日(日)の４回阪神６日・第９レースとして行われた北摂特別ではスーパーウーパーが１着となり、同馬に騎乗した武豊騎手(栗東・フリー)は、中央競馬史上初となるＪＲＡ通算4300勝を達成しました。デビューから34年７か月24日、２万3123戦目での達成です。

●熊沢重文騎手がＪＲＡ最多となる障害通算255勝を達成

10月24日(日)の５回新潟６日・第４レースではキーパンチが１着となり、同馬に騎乗した熊沢重文騎手(栗東・フリー)はＪＲＡ障害通算255勝を達成しました。これは星野忍元騎手の254勝を抜いてＪＲＡ史上単独第１位の記録となります。

●菊沢隆徳調教師がＪＲＡ通算200勝を達成

10月24日(日)の５回新潟６日・第８レースではアポロミラクルが１着となり、同馬を管理する菊沢隆徳調教師(美浦)は、現役108人目となるＪＲＡ通算200勝(延べ2646頭目)を達成しました。

●ロンジンワールドベストレースホースランキング発表

ＩＦＨＡ(国際競馬統括機関連盟)から恒例の「ロンジンワールドベストレースホースランキング」が発表されました(単位はポンド／2021年１月１日から10月10日までに実施された世界の主要レースが対象)。前回に引き続きアダイヤー、ミシュリフ、セントマークスバシリカの３頭が首位タイ(127)となり、凱旋門賞を勝ったトルカータータッソが第４位タイ(125)にランクイン。日本調教馬はグランアレグリアが第15位タイ(121／牝馬としてはトップ)、クロノジェネシス、エフフォーリア、グローリーヴェイズ、シャフリヤールが第21位タイ(120)に入っています。

★地方競馬ニュース　文・宇田川淳★

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド船橋の結果

2021ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド船橋は10月26日に行われ、第１戦は池谷匠翔騎手(川崎)、第２戦は篠谷葵騎手(船橋)が制しています。

●金沢のＪＢＣにテーオーケイインズ、サクセスエナジーらが参戦

ＪＢＣクラシック(JpnⅠ、11月３日、金沢、2100㍍)は、テーオーケイインズが筆頭格、チュウワウィザード、ダノンファラオ、オメガパフューム、ケイティブレイブが続きますが、カジノフォンテン、ミューチャリーの船橋勢にも上位進出の可能性がありそうです。

ＪＢＣスプリント(JpnⅠ、11月３日、金沢、1400㍍)は、サクセスエナジーが中心、以下リュウノユキナ、レッドルゼル、モズスーパーフレア、サンライズノヴァの順に有力視されます。

ＪＢＣレディスクラシック(JpnⅠ、11月３日、金沢、1500㍍)は、リネンファッションが最有力も混戦模様で、テオレーマ、マドラスチェック、レーヌブランシュ、右回りが課題もサルサディオーネ(大井)、クリスティまでが争覇圏内と考えられます。

ＪＢＣ２歳優駿(JpnⅢ、11月３日、門別、1800㍍)は、ＪＲＡ所属馬ではアイスジャイアント、サーティファイド、オディロン、コマノカモン、ワカミヤプレストという序列になりますが、いずれも１勝馬とあって、ナッジ、シャルフジン、リコーヴィクターら地元北海道勢が強敵となりそうです。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース　文・秋山響★

●Ｇ１コックスプレート～愛国調教馬ステートオブレストが優勝

10月23日にオーストラリアのムーニーバレー競馬場で行われた、Ｇ１コックスプレート(３歳上、芝2040㍍)はアイルランドからの遠征馬ステートオブレスト(牡３歳＝現地年齢表記４歳、父スターズパングルドバナー)がＧ１コーフィールドギニーからの連勝を狙ったアナモエとの接戦を0.1馬身差で制して優勝しました。勝ったステートオブレストは昨年は６戦して１勝。今年は６月のセレブレーションＳ３着の後、アメリカに遠征して迎えた前走８月のＧ１サラトガダービー(芝1900㍍)を鮮やかに差し切っていました。Ｊ.アレン騎手、Ｊ.オブライエン調教師はともにこのレース初制覇です。

●Ｇ１フューチュリティトロフィー～ルクセンブルクが制す

イギリスにおける平地Ｇ１のシーズン最終戦となるＧ１フューチュリティトロフィー(２歳牡牝、芝1600㍍)が10月23日にドンカスター競馬場で行われ、Ｒ.ムーア騎手が手綱を取ったアイルランドのルクセンブルク(牡２歳、父キャメロット、Ａ.オブライエン厩舎)が中団追走から残り400㍍を切ったあたりで抜け出して１馬身¾差で優勝しました。ルクセンブルクは７月のデビュー戦(芝1640㍍)、９月の前走Ｇ２ベレスフォードＳ(芝1600㍍)に続く３連勝です。